

令和7年度決算を振り返る

9月25日、弘前市中央公民館相馬館において、第62回通常総会を開催しました。
議事では、令和7年度剰余金処分案及び事業報告など全4議案と付帯決議を審議し、すべて原案通り承認されました。



令和7年度実績

()内は前年比

リンゴ入庫数量	505,434箱 (82%)
販売総額	43億4千万円 (86%)
コメ出荷数量	5,184俵 (91%)

安定性の指標

単体自己資本比率	24.11%
----------	--------

正組合員	433名
本人出席	108名
議決権行使書提出	199名
代理人出席	48名
計	355名

過半数以上出席のため通常総会成立

準組合員出席者	15名
---------	-----

《通常総会 提出議案》

報告事項1

令和7年度貸借対照表、損益計算書、注記表並びに会計監査人の監査報告及び監事の監査報告について

議案第1号

令和7年度事業報告及び剰余金処分案の承認について

議案第2号

令和8年度事業計画の設定について

議案第3号

令和8年度における理事及び監事の報酬について

議案第4号

退任理事に対する退任給与金の支給について

付帯決議

その他報告事項

大場組合長 開会あいさつ

はじめに、リンゴの着色管理や中生種の収穫作業など大変お忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。また、ご来賓の谷川市長をはじめとする関係機関の皆様、並びに下部組織の皆様におかれましては、ご多忙の中ご出席いただき、重ねて御礼申し上げます。

2年連続の豪雪という厳しい新年の幕開けでしたが、本日こつして無事に総会を迎えることができました。熊本地震をはじめ、北関東や本県での大雨など各地で災害が相次ぎ、大変な1年となりました。被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、少しでも早い復興を心



より願っています。

令和7年度を振り返ってみますと、豪雪に始まり、夏場の干ばつ、鳥獣被害など、本当に大変な1年でした。秋の強風被害や、地域によってはカメムシの被害も発生するなど、まさに「踏んだり蹴ったり」の1年だったと記憶しております。そうした厳しい状況の中、リンゴの取扱量は平成3年のリンゴ台風の年に次ぐ50万5000箱となり、我々も経験したことのない少なさとなりました。しかし、リンゴに関しては高値で推移したおかげで43億円ほどの売上となりました。果実全般としてもそのような結果に終わりました。米につきましては、県内で一番取扱量が少ないものの、高値基調であったことから1億7000万円ほどの売上となりました。さらに、共済事業では10年連続で目標を達成し、信用部門、購買部門のいずれにつきましても、当初の計画どおり進行することができました。

これもひとえに、組合員の皆様のご理解とご協力をいただいた賜物であると深く感謝申し上げます。

こうした各種事業の結果、当期剰余金9000万円、前期繰越剰余金9500万円を合わせ、合計1億8500万円の剰余金を計上することができました。のちほど第1号議案として処分案も提案してまいりますので、可決承認をいただきますら、出資当や事業利用配当のかたちで組合員の皆様に還元させていただきます。いただきたいと考えております。

結びになりますが、今のJA相馬村の財政が安定しているのは、組合員ならびに先人の役職員の皆様の努力の積み重ねこそが、今の姿であると強く認識しております。

私たちも気の緩みがないよう緊張感を持って新年度に臨んでまいります。皆様から様々なご意見を頂戴しながら、今後の業務などに活かしたいと思っております。今まで以上のご理解とご協力を賜りますよう、

心よりお願い申し上げます。

弘前市長祝辞

本日、相馬村農業協同組合の第62回通常総会が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。大場勲代表理事組合長をはじめ、皆さまの日頃からのご支援とご協力に厚く御礼を申し上げます。貴組合におかれましては、2年連続の豪雪の中、支線の独自除雪による支援をはじめ、地域農業を支える重要な役割を果たされており、ことに深く敬意を表します。また、小学校へのことも雑誌の寄贈や児童による食育体験など、子どもたちが農業や食に関心を持つ機会を作り出し、次世代への取り組みに心より期待しております。現在、農業環境は高齢化や担い手不足に加え、豪雪や鳥獣被害など大変厳しい状況にあります。さらに、大雨による農道や農地の被害に対しても、生産者の皆さまが安心して農業が出来る

ように作業を進めているところです。市では、関係機関と協力して、地域の農業を発展と安心して働ける環境づくりに力をいれてまいります。変わらぬご支援をお願い申し上げます。結びに、本総会のご成功と、ご列席の皆さまのご健勝ご多幸を心より祈念申し上げます。





「地域への貢献と元気な産地づくりをめざす」

農業を取り巻く環境は、気候変動による災害の頻発や、中東情勢の悪化に伴う資材・エネルギー価格の高止まり、さらには担い手不足などにより、依然として厳しい状況が続いています。一方で、食料安全保障の強化や持続可能な農業への転換が求められる中、地域農業の維持・発展に向けた農協の役割はますます重要となっています。

そこで事業基盤の強化に向けては、生産量の維持を最優先課題とします。その実現に向け、補助労働力の確保・育成や継続的な労働力確保の仕組みを探索するとともに、農業分野のデジタル技術を活用して生産者をしっかりとサポートします。

販売部門では、「飛馬りんご」のブランド力の維持・発展は言うまでもなく有袋化や着色優良系統を勧め、スマートフレッシュの活用で所得の向上に努め、購買部門では、安定供給

とコスト上昇を抑制するため予約注文を強化し、利便性と供給確保に努めてまいります。信用部門は営業店システムが導入されたことで、業務の効率化を目指します。

JA共済として、組合員・利用者からの信頼と期待に応えるため一人ひとりの必要性に応じた保障の提案をします。

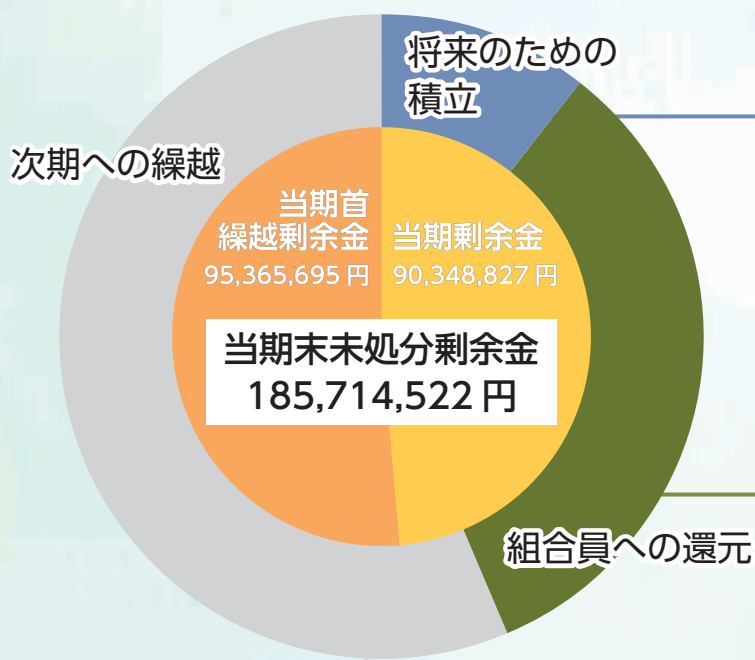
職員への人事労務・マネジメント力の向上と不正などを未然に防ぐ内部管理体制の維持、研修及び人事制度の整備をして参ります。

これらを基本施策とし、金融から指導事業までの総合機能を最大限発揮し、組合員・利用者に信頼されるJAづくりを実施してまいります。

さらに、自己資本の充実による健全経営とコンプライアンスの徹底を図り、地域との連携のもと、次世代へ持続可能な農業と豊かな地域社会を引き継ぐため、役職員一丸となって事業目標を達成してまいります。



剰余金の行方



農家経営維持対策積立金

20,000,000 円

農産物の自然災害等による減収や価格低迷・生産資材の高騰時などにより、組合員に支援が必要となったときにのために積立しているものです。

配当金

61,225,939 円

出資配当金

11,366,808 円

出資金は2%です。

ただし、年度内の増資及び新加入については日割計算を行っています。

事業分配配当金

49,859,131 円

- (1) リンゴ生果出荷数505,434箱に対し1箱50円
- (2) コメ出荷数量5,184俵に対し1俵200円
- (3) 予約購買(肥料・農薬・袋)に対し7%
当用(同)に対し3%
- (4) 共済保有高1,845,029万円に対し、対万1円

次期繰越剰余金

104,488,583 円

教育・生活・文化改善事業の費用に充てるための繰越額10,000千円が含まれています。



令和7年度決算につきましては、皆様のご協力により当期未処分剰余金1億8571万円(内当期剰余金9034万円、当期首繰越剰余金9537万円)となりました。
剰余金処分案として、6122万円(出資配当1136万円、事業分配当4986万円)承認・可決されましたのでお知らせ致します。